

令和5年度 久留米市文化芸術振興審議会 第1回会議（要旨）

1 開催日時

令和6年2月7日（水）10時～12時15分

2 会場

久留米市本庁舎3階 303会議室

3 出席委員（50音順） ※10名

井原委員、内野委員（副会長）、植田委員、翁委員、片山委員、木藤委員（会長）、日下部委員、西依委員、前原委員、矢次委員

4 欠席委員 ※1名

中園委員

5 事務局 ※9名

市民文化部 竹村部長、古賀次長

文化振興課 大鶴課長、中山課長補佐

久留米シティプラザ事業制作課 平木課長

久留米シティプラザ総務課 末次課長補佐

文化財保護課 井上課長

公益財団法人久留米文化振興会 園内魅力推進課・企画広報課 古賀課長

美術館総務課 眞子主幹

6 議事次第

1 開 会

2 委員・事務局紹介

3 議 題

（1）久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

（2）久留米市文化芸術振興基本計画の総括目標に対する進捗状況の確認について

4 その他

5 閉 会

議事録

1 開 会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

2 委員・事務局紹介

- 交代の植田委員を紹介（中園委員は欠席）

- 事務局（久留米市及び（公財）久留米文化振興会の担当者）を紹介。

3 議 題

(1) 久留米市文化芸術振興基本計画における各事業の実績及び計画について

- 事務局より資料 1,2 に基づき、久留米市文化芸術振興基本計画における各事業について、令和 4 年度の実績及び令和 5 年度の計画・進捗を説明。

質 疑

○ 内野副会長

- ・ 資料 2 について、
 - ① 芸術家等派遣事業の講師は、毎回同じ人になるのか。
 - ② 市民文化活動助成の「一般コミュニティ助成」はどのようなものか。
 - ③ 青木繁記念大賞ビエンナーレの終了後の取組について、検討はどうなっているか。

● 事務局

- ① 箏であれば、子どもたちに教えることのできる団体が、市内では 1 団体に限られるとか、馬頭琴はモンゴル文化の解説や馬頭琴の演奏ができる特定の人に限られるなど、同じ講師が続くことがある。狂言などは福岡市の複数の団体等にも来てもらっている。授業の規模によって、講師の人数も変わることもある。
- ② 国がコミュニティセンターの活動に必要な備品等の整備に助成する事業で、いったん市へ助成金が入り、申請団体へ市の補助金という形で交付する形になるため、この「市民文化活動助成（補助金）」のメニューに入れている。他の事業は市が直接文化団体等に交付しているもの。
- ③ 久留米連合文化会、久留米文化振興会、西日本新聞社を含む実行委員会の方々などから随時意見をお聞きしているが、全国公募展に代わる取組の案をまとめるまでには至っていない。

○ 西依委員

- ・ 市民文化活動助成は、補助団体が決まっているのか。

● 事務局

- ・ 全市的な規模や内容で行われる団体の活動・事業を対象としているため、対象となる団体が固定化されている傾向がある。全市的とまではいかず、新規の文化事業を行う団体で、財政支援を求める声に対しては、国や県教育文化奨学財団など民間の助成メニューを HP 等で紹介している。それらの申請手続きの相談は、文化振興課で受け付けている。

○ 片山委員

- ・ 予算について、R4 年度はコロナの影響もあったと思うが、予算に対して実績額が低くなっているものについて、その理由がどうだったかなど、予算ベースの説明がもう少し必要では。

○ 木藤会長

- ・ 予算が余った場合、次の年にどのように検討されるのか。

● 事務局

- ・ 基本的に、前年度の実績をベースに予算要求をするが、事業内容も見直しながらの予算要求と

なるため、前年と同額の予算をそのまま設定するわけではない。

○ 矢次委員

- ・ そよ風ホールの影響で、文化芸術全体の予算が削られたりしていないのか。

● 事務局

- ・ まず災害復旧が大事ということはあるが、文化芸術の予算も例年ベースで予算要求をしている。

○ 植田委員

- ・ 予算、決算の書き方で、17 ページに記載がないものがあるがなぜか。

● 事務局

- ・ シティプラザの提携事業については、市の持出がない予算の表し方になっている。プロモーターと連携しているものであり、チケット販売の委託料手数料の収入はある。

○ 植田委員

- ・ 提携事業は、格安で貸しているのか。何を提携しているのか。提携しているものとしていないものの、区別はなにか。提携事業だとおまけがあるのか。年間いくら提携事業に減免しているなど、その辺りは公開しているのか。
- ・ インガットホール活用事業の課題に、プラザ等で開催される同事業との料金差があるというのは、どういうものか。高い方に合わせるべきという書き方は逆ではないか。地元の市民から見るとメリットになることで、プラザが高額ということになる。

● 事務局

- ・ シティプラザの提携事業は、公演主催者のプロモーターとの間で、チケット販売や広報等の一部業務を協力して実施するもの。全国を巡回する話題性のある公演等は、市民の皆さんに喜んでもらえるよう、福岡など他都市ではなく久留米に誘致するため、プロモーターとの交渉カードとして使用料を減免する場合がある。減免額等の公開はしていない。
- ・ 九州交響楽団の演奏会を、インガットとプラザと両方で開催している例がある。課題の書き方は検討したい。

○ 内野副会長

- ・ 提携事業だと減免になるのか。プロモーター企画のものだけではなく、市民利用の減免を考えてほしい。展示室を個展発表の場として使ったりする場合でも、減免があってもいいのでは。市外の利用ではなく、市民が利用する場合を減免するべきではないか。
- ・ 昨年の審議会で、プラザのキャンセル枠の利用をしやすいようにしてほしいと言ったが、どうなったか。3 ヶ月前までしか予約できません、と言われるのは不便だしもったいない。

● 事務局

- ・ 提携事業＝減免、ではない。交渉になる。大型ミュージカル等をザ・グランドホールに誘致したい時などは、交渉の一つとして減免をすることもある。ちくご大歌舞伎や久留米第九のような、市民による大きな事業については、使用料減免の例もある。
- ・ シティプラザの貸館については、市民利用がまず前提にあるが、一定の使用料を負担してもらわないと、維持できない。旧市民会館での料金設定をふまえて、シティプラザの使用料は、元々安くさせてもらっている。旧市民会館と違って、シティプラザでは空調料金も込みの料金にしている。
- ・ 広場等の施設は利用の3 ヶ月前、会議室は1 ヶ月前までの予約、ということとは変わっていない。

ただ共同ホール閉館のこともあり、現在その辺りを検討中。

○ 井原委員

- ・ シティプラザは県内、九州全体でも中心的な施設になっていると思う。アクロス福岡などはなかなか収益が出ないが、開館してコロナも長かったが、全体の稼働率や入場者数はどうか。今後はいかに集客を伸ばしていくかが課題になると思うが。

● 事務局

- ・ 稼働率は、グランドホールで、H30年度が83.6%、R2が40.1%、R3が55.9%、R4が72.5%まで回復しており、他施設も同様。MICE（学会等）の現地開催が減っている。
- ・ 来場者数は、H30年度が552,000人、R2が520,000人、R3が163,000人、R4が350,000人、R5が12月まで356,000人で、R4に追いついている。だがコロナ前までは回復していない。回復には時間がかかると思う。

○ 前原委員

- ・ 先日、文化センターのライトアップと、自分の演劇事業の発表会が重なり、照明機材の備品が減らされてしまった。そういうことがないように調整してほしい。
- ・ シティプラザの普及啓発事業について、視覚障害のある友人が参加してよかったと言っていた。費用面が課題なら、自分が講師をしている朗読ボランティア団体等を活用してはどうか。
- ・ 視覚障害の友人が芥川展に行き、音声ガイドが無く、文字資料に（結界で）近づくこともできず、見づらかったと言っていた。ここでも朗読ボランティアを付けるなど活用できるのでは。

● 事務局

- ・ 芥川展は書が多く、照明も暗かったので、障害のある方には見づらかったと思う。学芸員による開幕ぎりぎりまでの情報整理などもあり、音声ガイドまでの準備は難しいが、事前予約でボランティアを使うことなど内部で検討したい。
- ・ シティプラザでは、鑑賞サポートとして、字幕ガイド、音声ガイドに取り組んでいる。資料に、費用面に課題があるとの表記があるが、特筆する課題とは言えないため訂正する。今後、市民団体等の協力を含め検討したい。

○ 翁委員

- ・ そよ風ホールを利用して困っている人のサポートをどうしているのか。取り組むならどこが担当になるのか。
- ・ 芸術家等派遣事業でコーディネーターが少ないなら、1人の負担が大きいのでは。そうすると新規の参加もしづらいのでは。地域に詳しいコミュニティ・スクールの人を入れるなど、他のジャンルからも一緒にやる枠組にすることもいいと思う。
- ・ 若いクリエイターへの取り組みはあるか。アニメ、デザインなど若手が取り組んでいるものはある。プラザの動画配信でもそうした若手とタイアップしたらどうか。
- ・ コロナで変わったこと、変えたいこと、続けたいことについて、市の考えはあるか。

● 事務局

- ・ そよ風ホールの利用者への対応については、田主丸総合支所文化スポーツ課が窓口となっている。
- ・ 公募で養成講座に参加したコーディネーターが定着するよう、養成講座の内容を引き続き検討していきたい。

- ・ 若手の活用として、音楽事業では、市内外のミュージシャンや音楽関係者に、企画や出演で協力してもらっている例がある。アニメ、デザインの分野で、市の事業と一緒に、という例はあまりないかもしれない。
- ・ コロナ後の計画の進め方については、議題（２）に関わることなので、そこでご意見をいただきたい。

(2) 久留米市文化芸術振興基本計画の総括目標に対する進捗状況の確認について

- 事務局より資料 3、4 に基づき、令和 4 年度、令和 5 年度の市民アンケートモニター「くるモニ」の調査項目案について説明。

質疑

○ 翁委員

- ・ 昔は会いに行かないといいかどうか分からなかった相手が、今ではネットでの検索 1 位には、太刀打ちできなくなっている。リアルにはナンバーワンであり続ける団体もいるが、ネットとリアルと両立できる形を模索する必要があると思う。

○ 日下部委員

- ・ 計画に、学校現場の声がどこまで反映されているかが気になる。学校のプログラムと、計画の各事業を、長期的に考える取り組みが必要では。

○ 内野副会長

- ・ ネットと生の差は大きい。ネットで満足しているが、実物に触れていない。配信で満足している状況をどうにかしないといけない。リアルに触れられるようにはどうするか、といった考えが必要では。

○ 木藤会長

- ・ 事務局では、教育現場の人から意見を聞く機会はあるのか。

● 事務局

- ・ 芸術家等派遣事業では、担当教員と打合せなどしているが…（計画全体の進捗について、教育現場の声を聞く仕組みはない）。小学校については、学外で美術鑑賞をするといった時間が取れない、忙しいという声を聞いている。

○ 日下部委員

- ・ 市と学校との要望のすり合わせが難しいなど、実際にはあると思う。計画に教育委員会との連携とあるのだから、そこがしっかりやれるといい。子どもの体験の充実のためには必要。

○ 木藤会長

- ・ くるモニの結果については、計画の目標値をどうするか、がある。これまでの調査結果を、次の計画にどうしていくか、ということになると思う。

○ 植田委員

- ・ R4、R5 年度のくるモニの設問はどうかと思う。ネット配信の鑑賞が広がっていることは今では当たり前のこと。それより、今何を見にいきたいのか、など聞く方がいいのではないか。直接見ることの意義を問う設問にした方がいいと思う。
- ・ くるモニの結果は悲観することではなく、ネットで鑑賞・活動の裾野が広がる、見る人が増える、という見方にしたらいいのでは。生とネットは全くの別物。広がった裾野に対して、どう

アプローチしていくか、という問いにしていっての方がいいと思う。「ネットで市民が満足しているなら予算はいらないね」と言われたいよう、予算説明につながる問いに設定した方がいい。

○ 木藤会長

- ・ くるモニの設問については、R3年度までに審議会で議論をして、「まず市民の実態を知ろう」ということでやったもの、ということをご理解いただきたい。

○ 井原委員

- ・ ミーシャは「文化で元気を届けよう」と、被災地に発信していた。設問については、コロナを背景にした現状把握という意味があったと思う。今はネットからもっと生を見たい、という人も増えていると思う。

● 事務局

- ・ R4, 5年度のくるモニで、市民のネット利用による鑑賞傾向などが分かったので、R6年度の調査では、市民意識調査を予定しているが、いただいたご意見をふまえた項目に変更することを検討したいと思う。

4 その他

- 現委員の任期満了の御礼、来年度からの委員改選・審議会開催、その他の事務連絡

5 閉会

○ 木藤会長

- ・ 閉会の挨拶

以上